

今年度このページを担当するスタッフの大好きなお仕事をご紹介します♪

数あるたくさんのモンテッソーリ活動の中で、どの子ども達も必ず夢中になるこの活動は私の大好きなおしごとの一つです。用意するものは、直径 10 cm 程度のガラスボウル2つと乾いたスポンジで、一方のガラスボウルには適量の水が注がれています。そこにスポンジを浮かべ、水を含んだタイミングで両手でそっと持ち上げ、もう一方のガラスボウルに絞り移していきます。この一見シンプルな活動の中で子ども達の心は強く惹きつけられます。まずはスポンジを浮かべた瞬間です。セルロース製なので、乾いた状態はちょうど高野豆腐のように非常に固く、ひとたび水に浮かべると一気に吸収していきます。その膨張する様はまるで何かの生物のように動くので子ども達の目は釘付けです。そして繰り返しスポンジを絞っていくうちにたくさんあったはずの水がどこかに消えてしまいます。そう、もう一つのボウルに全部移動したと発見した時、子ども達は深い満足感と達成感を覚えるのです。

(濱岡麻紀)

スポンジ絞り (日常生活)



モンテッソーリの感覚教具に10個の木製の立体(球、立方体、直方体、楕円形、卵体、円柱、三角柱、四角柱、円錐、三角錐形)が入った「幾何立体の籠」というものがあります。立体が入った籠には布が被せてあり、子ども達は手を入れ、その形状を触り、立体を1つずつ取り出します。その立体を真横から、底から、上からなどいろんな方向から面を見て、じっくり触り、観察します。その後名称のカードと立体を合わせます。慣れてくるとお友達同士で名称を言って立体を取り出すゲームをしたりします。こうした活動を通して見えないものを触り、そのもののイメージをする心理的視覚が育っていきます。モンテッソーリ先生は、知性の基礎を育てる上で感覚教育はとても大切だと考えました。何にでも触りたいこの時期の子ども達とするととても楽しい私の大好きなお仕事の一つです。

(河野佳子)

幾何立体のかご (感覚教育)

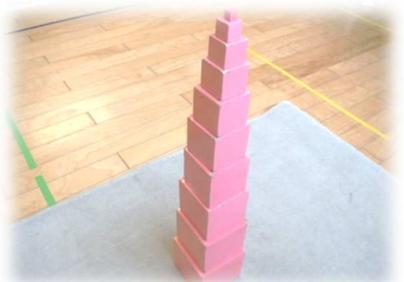


今年度よりモンテッソーリのお仕事をお手伝いさせていただきます、荻原愛弓と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。私の好きなお仕事のひとつに、「桃色の塔」があります。

教具は、感覚分野の棚の一部に 10 cm から 1 cm の 10 つの桃色の立方体が「塔」の形で積み重ねられています。お仕事の際には絨毯にその立方体を1つずつバラバラに運び、再びもとのように、積み上げます。完成した塔を周りから見たり、上から眺めたりします。その工程を十分に楽しんだ後、初めて、各立方体を比較し、「大きい」「小さい」の言葉が使われます。モンテッソーリの感覚教具はこの「桃色の塔」の様に、先ず混沌(バラバラの状態)から秩序だった状態に置き直すものがあります。それは子どもに、物を比較する「ものさし」をあたえるだけでなく、0歳から3歳までに無意識下に吸収した事を意識的に整理付けたい内的な欲求を助けると言われています。加えて「桃色の塔」はモンテッソーリ博士が大戦の後、街の瓦礫の山を見て、平和への願いを込めて作った教具であるという事も、是非子ども達に紹介したい理由の一つです。

(荻原愛弓)

桃色の塔 (感覚教育)



赤バッチが全力で取り組むお仕事

子どもは言語に対する強い感受性を持っています。その時期をモンテッソーリは言語の敏感期と呼びました。この時期子ども達は特別に強い言語への興味と吸収力を持っています。3歳～4歳のころは特に、書かれた文字に対し強い興味を示します。この時期は“正しい書き順”を体で覚えるための最適期なのです。砂文字はそんな子どもの欲求に応える、触覚で文字を体感する興味深い教具です。小さな板にサンドペーパーで切り抜かれたひらがなが張り付けてあります。鉛筆を持って字を書く前に、文字の形を優しい手で繰り返しなぞります。そうすることで自然と書き順が覚えられ、また鉛筆を持つための優しい手が準備されるのです。日本語はひらがなだけでも50音あります。毎日3～5文字を繰り返し行います。子ども達は朝登園すると「砂文字やる！」と楽しそうにお仕事に向かっています。
(T. M)

砂文字板
(言語教育)



黄色バッチのあこがれのお仕事

数の活動の中で最初に取り組むお仕事です。赤と青の色鮮やかな教具は、子ども達にとってとても魅力的でみんな憧れの活動です。ちょうど拍子木のような形状の木製の棒 10本を使って活動していきます。一番短い長さは10cm。子ども達はそれを「1の棒」と呼びます。次は20cmで「2の棒」。10cmごとに棒に名前があり、一番長い棒の100cm(1m)は「10の棒」と呼びます。1の棒は赤、2の棒は赤→青の順、3の棒は赤→青→赤、と一本の棒に10cmごとに色分けされています。この色分けは、子ども達の活動の助けになっており、その色一つ一つに手を置きながら、例えば「いち、に、さん、3の棒」という様に、すべての棒の数を言葉にしていきます。ここで大切なことは、同時に手と目も使っているということ。つまり視覚的に棒の長さを感じながら、実際に手で数えて「数」一つ一つの違いを全身を使って会得していきます。日常でも、お風呂につかりながら数えたりと子ども達が数に触れる機会はたくさんある中で、数の棒で目や手を使った経験はその後の数学的頭脳の育成に大きく関わることになります。
(M. H)

数の棒
(数教育)



青バッチが作り上げるお仕事

先月号で取りあげました「幾何立体の籠」のお仕事の展開として、青バッチが取り組む立体作りのお仕事をご紹介します。籠に入った10個の木製の幾何立体とその名称を覚え、覆いを被せた籠の中からその立体を取り出す活動を十分に行った後、やりたいという子どもには紙や粘土を使ってその立体を作る活動に案内します。球や楕円体などの球体は粘土で作ります。球体以外は画用紙などの紙に展開図を作り、切って組み立てます。それまでの活動の中で、立体を実際に触ったり、横や上から見ることで十分な観察を行っているので、子ども達は作業しながらいろいろな発見をして楽しんで作り上げていくのです。最後はモビールなどにしますが、これまでの活動を通して培ってきた手指を使って工作に取り組みます。
(Y. K)

幾何立体の籠
～立体づくり～
(感覚教育)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介します目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありベースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

赤バッチが繰り返し活動するお仕事

3歳くらいの子ども達が繰り返し行うお仕事の中に「茶色の階段」という、感覚教材の中で有名な教具があります。太さが一辺10cmから1cmまでで、1cm刻みで細くなる10本の直方体で出来ています。色は全て茶色で構成されています。この直方体を、太いものから順番に階段を作ります。視覚を使い、順番に並べますが、途中で順番を抜かしてしまったりすることもあります。一人ひとり気づくタイミングも様々ですが、私達はその様子を見ながら、自らの気づきを大切にしています。このようにモンテッソーリの教材は自ら気づけるようになっていきます。お部屋に正しく秩序よく並んでいることも大切になってきます。見る力、注意力を育て、ぴったりと合わせたり、両手を使って違いを感じたり、触覚を楽しむこともできます。(Y. S)

茶色の階段
(感覚教育)



黄色バッチが楽しむお仕事

この季節、園庭に咲く丹精込められた花々が小さな花瓶に入れられ、廊下やお部屋のあちらこちらに飾られています。「花の水替え」は子ども達に人気のお仕事。手順は、花瓶の水を入れ替える・水切りをする・活け直し飾るです。お仕事を始める前に、「〇〇ちゃんはどこからお水を飲む？」と質問した後、「じゃあ、このお花はどこから飲む？」と尋ねてみると、茎の先を示すお子さん、花を指すお子さんがいます。水切りした切り口を、虫メガネで見るところはみんなの興味ポイント。切り口を見ながら「これで大丈夫！」とか「元気が出てきましたね」と、つぶやきが聞こえてきます。水差しを両方の手で持ち上げ、小さな花瓶の口に水を注ぎ入れることは簡単ではありません。こんな時、大人は「大丈夫？」「こぼさないように」と声を掛けがちではないでしょうか？日常生活のお仕事では、初めに教師がゆっくりと動作を示した後、子どもは自分の目と手で取り組みます。気をつけても水があふれることはありますから、その時は始末の方法を伝えます。こうして機会を重ねることで子どもは上達し、自分とモノ・モノとモノ・自分と他者の関係を知っていくのです。お仕事の後「今度はどこに飾ろう」と活けた花を運ぶ子どもの表情はとても良い笑顔です。(A. O)

花の水替え
(日常生活)



青バッチが興味深く取り組むお仕事

私達が普段目にする地球儀が子ども達のお部屋の中にも2種類あります。どちらも私達が知っている地球儀とは違い、国境も国名も表示されていない「大陸と海」だけのシンプルな造りです。今回はその1つ「白と青の地球儀」です。白い部分は大陸で、触ると砂紙のようにザラザラしています。対照的に青い部分は海で、すべすべしています。子ども達が地球儀に触れた時、まず初めに感じることは地球が丸いということです。私達はここで、地球は丸いということ、そしてもっとも大きいということをお話していきます。ザラザラの白い部分を何度も触り「土」で出来ていること、一方青いすべすべは「水」で出来ていることをお話していきます。すると子ども達は『地球は「土」と「水」で出来ている』ことに気づき驚くのです。そして続きのお楽しみのお話は、もう1つの地球儀で行っていきます。(M. H)

白と青の地球儀
(文化教育)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

赤バッチが集中して取り組んだお仕事

子ども達は「ことば」を覚えるのが大好きです。そこで興味を持つ教材の中に絵合わせカードがあります。絵合わせカードは、同じ絵のついているカードが6～7枚入っている物を2セット1組で行います。一方にはその物の名前が書かれており、もう一方には名前無く、名前だけが記されている小さなカードがついています。初めは同じ絵と絵、2枚のカードを合わせることから始めます。そのうちカードについている字と、字の書いてある小さなカードも合わせます。「字」を形としてとらえている段階の子ども達は、この工程を何度も繰り返し、楽しめます。字を形として認識しているので、自分の名前と同じ文字を見つけると、「同じだ!」と目を輝かせて教えてくれます。この時期の子ども達に見られる、「言語の敏感期」です。絵合わせカードには様々な種類があります。興味のあるものを自分で選択できるのも、魅力的です。(M. A)

絵合わせカード
(言語教育)



黄色バッチの成長が見られるお仕事

黄色バッチが取り組んでいるお仕事に「なぞり文字板」があります。まず、筆順が色で示めされたお手本の一文字を下敷きに、トレーシングペーパーに透かし、フェルトペンでなぞります。柔らかな書き心地が子どもの筆圧を助けるので、出来栄もなかなか良いものになります。画用紙に「あ」から貼る五十音表を作る子どももいます。透けた紙に書かれた文字なので、鏡字にならないよう「こうかな?」と一文字ごとに向きを考え確かめながら、慎重に貼る姿が見られます。ところで、この「書く」ための手の準備はいつ頃から始まるのでしょうか?実はICの指先のお仕事、お盆の持ち運び(両腕)から既にゆっくりと蓄えられたものなのです。また縦割りのクラスでは、歳上の友達の仕事を見て「今度はこれをやりたい!」という気持ちが膨らんでいくようです。黄色バッチともなると「この次は〇〇ちゃんと同じお仕事をしたいから、用意しておいてね。」と伝えてくれる子どももいて頼もしい限りです。日毎に少しずつお仕事を積み重ね、良く動く手、見える目をつくることは、子ども達それぞれの意思を叶え、自信へと繋がっていくようです。(A. O)

なぞり文字板
(言語教育)



青バッチが楽しんで取り組むお仕事

前回に続き、今回は次の活動「色つき地球儀」です。名前の通り大陸ごとに色がついた地球儀で、アジアは黄色、オセアニアは茶色、アフリカは緑、ヨーロッパは赤、北アメリカはオレンジ、南アメリカは桃色、北極と南極は白となっています。ここでも国境は見られません。子ども達は、区別された大陸の色に興味を持ちながら、自分の住む日本が黄色のアジア大陸に属していることを知ります。アジアの端にあることや、想像以上に小さな国であることを発見した時の驚きと興奮は印象的です。またこの活動で、新しい言葉「大陸」と「大洋」も知ります。そうしてこの活動を終えた子どもは、日常の中にも大陸を見つけたる名人となります。雨上がりの道路の水たまりの形を見てオセアニアと言ったり、通りの垣根の葉のつき具合がアフリカに似ているなど、地球儀から「世界」を知った子どもの想像力には感心させられるばかりです。(M. H)

色つき地球儀
(文化教育)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの「自己選択」の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

赤バッチが集中して取り組むお仕事

小さい頃から子ども達は、大人が使う物にとっても興味を持ちますよね。身近にあるハサミを使って、子ども達は紙を切ることが大好きです。

ハサミは大人が使う物。子ども達は危ないから使ってはいけない…そう思っていませんか？いいえ。子ども達は使い方をしっかりと、覚えています。持ち方・運び方・切り方・置き方など、一連の流れでとても集中して取り組みます。

始めは真っすぐに書かれた線の上を切る活動から、段々と斜めに切ってみたり、曲線を切ってみたりと活動は様々です。当初は、直線だけを切っていた子も、今では複雑な線や曲線を切れるようになり、出来るとどんどん難しい物にも、挑戦していくのです。

それを繰り返す毎に、手首の協応にもつながり、生活に必要なことが次第に出来るようになる大事な活動です。(R. K)

切る

(日常生活)



黄色バッチが発見を楽しむお仕事

子ども達は園のお部屋の中で、毎日の日常生活の中で、様々な幾何図形を目にしています。以前ご紹介した幾何筆筭(きかたんす)のお仕事では、平面図形に触れ、三角形や四角形といった名称を言ったり、お部屋の中でそうした形の物を探す活動をしてきました。

構成三角形というお仕事の中の「長方形の箱」では、いろいろな種類の三角形を合わせることで、四角形が出来ることを経験します。箱の中にある三角形の辺には黒い線がついており、同じ色の2枚の三角形を線で合わせると、正方形や菱形や長方形といった四角形が出来るようになっています。色の違いや黒線を合わせるという約束を伝えることにより、子ども達が自ら発見出来るように準備されています。

子ども達は楽しみながら幾何の世界に親しんでいきます。(Y. K)

構成三角形 長方形の箱

(感覚教育)



青バッチが新しく世界を知るお仕事

子ども達は、毎日のように家族や友達と一緒に話をしたり、何かを見たり触ったりしながら、大人の想像を超える勢いでどんどんと新しいことを吸収しています。もっと知りたい、本当のことを知りたい、という気持ちが強く表れる今の時期は「世界」についての話や、地球儀に触れることはとても良いことだと、モンテッソーリ教育の創始者であるマリア・モンテッソーリ女史は言っています。この活動で使う「世界地図」はいわゆる一般的な平面の地図でありながら、色は白と青の2色のみで陸と海に分けられています。立体的な地球儀が、二つの円に変化して描かれることで一枚の地図に出来ること、またそうすることで一目瞭然となり、地球儀にはない「分かりやすさ」を知ることにもなります。「丸い地球を平らにできる」事実を目の当たりにした時、子ども達は大きな驚きを見せますが、まったく新しい知識を得たことで、深い喜びへと満たされていきます。(M. H)

白と青の世界地図

(文化教育)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

赤バッチが集中して取り組んだお仕事

赤バッチが大好きなお仕事の中に、「色水つぎ」というお仕事があります。まず、色水の入ったガラスのピッチャーと、形の異なるコップを用意します。ピッチャーの中には、とっても魅力的な水色の色水が！時には、赤や黄色と色を変えたりもします。コップには、量線があり、子ども達は、その線まで色水を注ぎます。注ぐ姿は真剣そのもの！この時の間違いは、線を越えてしまうこと。きちんと教具が教えてくれます。自分で間違いに気づくと、もう一度チャレンジ！！何度も繰り返すことで、手首の運動、調整ができるようになり、ぴったりと線まで注ぐことができます。コップの形を変えたりすることで、活動の幅も広がります。

この活動を何度か行ったあとは、お食事の時間に、お茶を注ぐなど、生活にもつながっていきます。また、「お茶のサービス」という活動にもつながり、生活活動へ自信をもって参加していきます。(Y. S)

色水つぎ
(日常生活の練習)



赤バッチから黄色バッチ、青バッチに至るまでのお仕事

今回は、赤バッチから青バッチまで楽しめる、「鉄製はめ込み」というお仕事をご紹介します。その名の通り、鉄の素材で出来ていて、図形とその枠で1ペアになっています。図形は全部で10種類。最初は「円」など描きやすいものから、色鉛筆で枠の内側をなぞると、子どもは自分で書いた「円」に驚きながらもニンマリ。「これは、お日さま。これはお月さま。」などと何かに見立てたりしながら、幾度も繰り返します。

一方、黄色バッチや青バッチは違う図形を組み合わせ、作図をしたり、タッチを変えて、色の濃淡を作ったりと、デザインは楽しく自在に広がって行きます。やがて実際に鉛筆を持ち、文字を書くための、左右の腕の働きや、手首の柔軟さ、指先の力加減が自然に準備されていきます。(A. O)

鉄製はめこみ
(言語教育)



青バッチが夢中で取り組むお仕事

前回の白と青の世界地図から、今度は大陸ごとに7つに色分けされた木製の世界地図を使います。大陸の色は、以前の「色つき地球儀」と同じです。この活動は、それぞれの大陸がパズルのようにはめこみが出来るので、一つ一つを触ってみたり、視覚的にも、より一層形が捉えやすくなります。何度も繰り返した子ども達は、次に「名前」を知りたくなります。そこで、「アジア」「オセアニア」など、小さな名前カードを使いながら、大陸に置いたり、裏返して名前を見ないで声に出してみたり、自分なりに工夫をするようになります。最終的には、50か国もあるような大陸の国名にも挑戦し、更には、各国の国旗にも興味を抱いた子ども達は、世界を知る楽しさで夢中になります。心と目を向けると、子ども達の周りには世界の話がたくさん。本やテレビ、ラジオからは色とりどりの国旗や国の名前が、子ども達の目や耳にスポットライトのように飛び込んできます。家庭に地球儀がある環境も自然と世界への入口が出来て素敵ですね。(M. H)

はめこみ世界地図
名前つきの世界地図
(文化教育)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

赤バッチが繰り返し取り組むお仕事

これは、日常生活の練習の活動の「着衣枠」です。モンテッソーリが考案したもので、木の枠に2枚の布が付けられ、ボタン、ファスナー、安全ピン、カギホック、リボン結びがあります。どれも子ども達が、日常生活の中で出会い親しみのあるものです。中でも、赤バッチが今盛んに取り組んでいるのは、ファスナーです。冬に向けて、コートを自分達で着られるよう練習をしています。日頃の日常生活とモンテッソーリ活動「着衣枠」の活動が連動し、ファスナーが「自分でできた」体験に繋がっていくのです。出来るようになるまで、何度も挑戦し、繰り返し、子ども達は努力を惜しみません。そんな自分を誇らしげに思う気持ちを、大切にしていきたいです。(S. K)

着衣枠
(日常生活)



黄色バッチが興味津々のお仕事

色板という「感覚」のお仕事をご紹介します。色板には3つの箱があり、中には絹糸が巻かれた、糸巻の形の板が入っています。(1)の箱は赤・青・黄の三原色のペア6枚で、板の持ち方と色の合わせ方を練習します。(2)の箱には3原色とその混色で出来る5色と、白・灰・黒が、ペアで入っていて、色を合わせ、名前を知ることが出来ます。(3)の箱は9色、7段階のグラデーションです。同じ青でも、夜空のように濃い青から、薄雲のような淡い青もあります。子ども達は「これは同じ色」「これより濃い色、薄い色」と、比べ方、言い表し方を知ります。そうして、わずかな色の差異に気づける様になると、自身の体験から「海に行ったよ、海はこんな色だった!」「葉っぱの緑はこれ。いや、これかなあ」と色板を手がかりに、色を思い浮かべ、見つけて行きます。この秋も散歩の時など、季節のめぐりや彩を、五感いっぱい使って楽しみたいものです。(A. O)

色板
(感覚教育)



青バッチが楽しんで取り組むお仕事

青バッチの子ども達は、地図や地球儀の活動をしています。そこにある大陸は、実にさまざまな形をしていますね。よく見ると、湾や半島、湖や島、それに地峡や海峡など、いろいろな地形から成り立っていることが分かります。

子ども達には「対照地形カード」という興味深い活動があります。カードを使って「わん」や「はんとう」などの言葉や、その意味を知ります。初めて耳にする言葉に、その表情は真剣そのものです。次に、地図や地球儀を持ってきて、実際に同じ地形を探していきます。大きなものから、小さなものまで、「あった!」「ここにも!」と声を上げてどんどん見つけていきます。額がついてしまうほど近づき、夢中になって探す様子は、目をキラキラとさせて楽しそうです。生活の中でも、身近な「東京湾」や「房総半島」などの言葉をどこかで聞いた時、「あっ!」と気が付いてくれるかもしれませんね。(M. H)

対照地形カード
(文化教育)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介します目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようお願いいたします。

赤バッチが集中して取り組むお仕事

五十音並べは、言語教育の教具の一つです。五十音表が書かれたお見本を上置き、一枚ずつひらがなが書いてある板を、お見本と同じように行から並べていきます。最初は「あ」と書かれた板を探します。そして、「あいうえお」と並べられると、お見本と合っているかを声に出して読みながら確かめます。ひらがなが読めなくても、お見本と同じ形のひらがなを見つけることで、文字に親しみをもちます。最後の「ん」まで完成した時に子ども達は達成感を味わいます。日常の中にお子様が発見したひらがなを一緒に発見してみたいはいかがでしょうか。自分で見つけて読めたことで楽しみを知り、言葉（音）と書くということへとつながっていきます。

(Y. M)

五十音並べ

(言語教育)



黄バッチのあこがれのお仕事

数教育の象徴的な教具の一つに「ビーズ」があります。1、10、100、1000の4種類で、どれも全て金色です。一度目にした子どもは、そのきれいな金色に魅了されて、興味深い様子で手にします。今回はその子ども達の憧れ「100のくさり」についてです。

100のビーズは、板状で正方形の形をしています。よく見ると、1のビーズといわれる小さなビーズが、縦横10個ずつきれいに並んで出来ています。子ども達は、この活動で本当にビーズが100個あるかどうか数えていきます。子どもは100という数字が好きですね。待ちに待った様子で、意気揚々と数え始めます。19から20、29から30…と、10の位が進むたびに手を止めて次に来る数字を考えます。そのうちに、コツをつかんで数字の規則を理解していきます。つまり、数字は1から9の連続で成り立っていることを捉えるのです。ご家庭でも、お風呂などの場面で数を数えることが楽しくなりそうですね。

(M. H)

100のくさり

(数教育)



青バッチがじっくり取り組むお仕事

子ども達は、「縫う」お仕事が好きで、集中して活動する姿が見られます。

「縫う」活動の準備としては、はじめひも通しなどの遊びを通して、小さな穴に紐を通す活動をします。また木の玩具や厚紙にあけてある並んだ穴に、紐を上下に通して波縫いをする活動にも取り組みます。その後本物の針（はじめは先のとがっていない太い刺繍針）を使って行ないます。ひとりで縫物ができるようになるには、玉結びや玉止めができるようになる必要がありますので、興味がある子どもにはその方法を紹介します。青バッチにもなると、細い針の小さな穴に細い糸を通し、自分で玉結びをして、スパンコールやボタンをつける活動に取り組みます。糸が絡まったり、うまく玉止めが出来なかったりといろいろと困難にも出会いますが、自分の作品の完成のために時間をかけて取り組みます。やりたいお仕事に出会ったときに子どもが見せる集中力や忍耐力は力強いものがあり、夢中になって活動します。

(Y. K)

ぬいさし

(日常生活の練習)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの「自己選択」の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありベースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

赤バッチが集中して取り組むお仕事

これは「文字さがし」というお仕事です。このお仕事では、絵と名前が描かれているカードと、それに付随した文字カードを使います。文字カードには、一枚に一つの文字が書かれています。

まず、名前が書かれているカードを横に一枚ずつ並べます。次に文字カードをそれぞれの名前付きカードの下にバラバラに置きます。バラバラに置かれた文字カードを、子どもが名前付きカードの隣に置きます。子どもは文字の形を見て、文字カードを置いていきます。文字カードを置いたら、一つ一つの文字を一緒に読んでいきます。このお仕事では、バラバラにあった文字を合わせると一つの言葉になるということを教えてくれます。例えば「い」と「ぬ」の文字を合わせたら「いぬ」になるということです。

普段からさまざまな文字に触れている子ども達と一緒に、書かれている文字を読むととても嬉しそうに何度も繰り返し行います。(H. I)

文字さがし
(言語教育)



黄バッチが夢中で取り組むお仕事

感覚教育の後半になると、黄バッチでは「構成三角形」の活動に進みます。全部で6種類あり、今回は「大きい六角形の箱」です。

六角形の本製の箱には、赤や黄色などのきれいな色で構成された六角形があります。よく見ると、それらは全て同じ鈍角二等辺三角形から成り立っています。子ども達は、絨毯上に一度バラバラに出して同じ色同士の三角形を集めたり、そこに引かれた黒線と黒線を合わせることで、楽しんで形を作っていきます。そうして出来た形は、ひし形（赤色）と平行四辺形（灰色）。更にはもう一つ、6つの三角形を使った正六角形（黄色）が出来ます。それらの形を、よく比べたり重ねたりしていくことで、実は、ひし形は六角形の中に3つあること、また平行四辺形（灰色）も同様に3つあることを、自ら発見していきます。身の周りでも、机の角や切り分けられたケーキを見た時に、三角形で出来ていることを自分で発見すると、心に残る大きな喜びとなることでしょう。楽しみですね。(M. H)

構成三角形
大きい六角形の箱
(感覚教育)



青バッチが集中して取り組むお仕事

お友達とグループで、ビーズを使ってたしざんなどの活動「銀行あそび」を十分楽しんだ後、今度は「切手」という教具を使って、一人でする活動「切手あそび」を紹介します。ビーズを使った活動では、1,10,100,1000 という数を1のビーズ、10の棒状のビーズ、100の平面のビーズ、1000の立方体のビーズを使って数の大きさの違いを実感しながら活動します。その後の「切手あそび」では、1,10,100,1000と数字が書かれた緑、青、赤、緑の2センチ四方の薄い切手のようなピースを使って計算をします。ビーズを使った活動を経験しているので、大きさが同じで、より抽象化が進んだこの切手を使っていても数の大きさをイメージすることができます。切手あそびでは、たしざんやひきざんをした後、子どもは問題集にある答えをめくって自分で正誤を確かめるので、間違えても他人に訂正されることなく、自分でやり直したり、進んだり、主体的に答えを見つけることを楽しむ経験をするのです。(Y. K)

切手あそび
(数教育)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

赤バッチが繰り返し取り組むお仕事

感覚教材の1つに「ひみつ袋」というお仕事があります。この教具は、かぎ・キーホルダー・さいころ・おはじきなど、1対の巾着袋の中に子ども達の興味をそそる小物が入っています。

まず、絨毯の前に2人が並んで座ります。先に取り出す人が袋の中に手を入れて好きなものを1つ出します。もう1人の人は、自分の持っている巾着袋から手探りで同じ物を探し、絨毯に並べます。合っていたら大成功！！この活動は、指先と手のひらで触り、立体を識別する感覚を洗練させる活動になります。「かぎ」「さいころ」と言いながら袋から出すことで物の名前を覚える言語活動にも繋がっていきます。魅力的で子ども達がわくわくできるような「ひみつ袋」を準備しています。(M. A)

ひみつ袋
(感覚教育)



黄色バッチが楽しみながら取り組むお仕事

子ども達は鉛筆などで文字を書くことが出来なくても、「移動五十音」という教具を使えば、物の名前を「書く」ことができます。五十音が書かれたプラ板を並べて表すのです。例えば、野菜の名前、「にんじん」などの言葉を文字の板を「に」「ん」「じ」「ん」と並べて表します。ところが「きゃべつ」と書こうとすると、「きゃ」という文字が見つからない！と戸惑います。こうした拗音や拗長音などを含んだ少し難しい言葉を紹介する活動が「困難な綴字法の紹介」です。大きい「き」と小さい「ゃ」の文字板をだんだん近づけながら「きーゃ」「きーゃ」「きゃ」と同時に発音することで、その語の音や表記の成り立ちを知ります。他に「きゃ」が付く言葉を探したりしながら、「きゃ」の部分に赤字の紙、その他の部分に青字の紙を使って並べ、たくさんの言葉を発音しながら表すお仕事です。(Y. K)

困難な綴字法の紹介
(言語教育)



青バッチの大好きなお仕事

以前の「世界地図」の活動の後には、いよいよ「日本地図」です。地球→世界→日本と、より身近な場所へと活動が進んでいくプロセスは、モンテッソーリ教育の特徴の一つです。子ども達は、世界の中の日本が、ほんの小さな島国であることに驚いたばかりですが、そこに実は、「地方」や「都道府県」と呼ばれる名称があることに出会います。はめこみ地図や名称カードを使って、位置や都道府県名を知ります。すでに馴染みのある名称を発見した時は、目を大きく輝かせて、知っている限りのことを勢いよく話してくれます。「みんなで新幹線に乗っておばあちゃんの家泊まりに行ったよ」「大きな神社があって長い階段があった所だよ」実際にその地で経験した記憶が、自分の目の前の活動と結びついた時、どんなに嬉しいことでしょうね。ご家庭で賑やかに、日本の話をする子ども達の声が聞こえてくるようです。(M. H)

日本地図
(文化教育)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

赤バッチが楽しみながら取り組むお仕事

点線が付いた布を指先の動きを調節しながら折りたたむお仕事です。片手で布を押さえながらもう一方の手で優しく折り目を付けていきます。簡単そうに見えますが、子ども達にとっては、布の端を指先でつまんでぴったりと折りたたむことは難しい動作です。きれいに折りたたむことができるととても嬉しいようです。折りたたむという動作ができるようになると、折り紙にしっかりと折り目を付けて折れるようになったり、お洗濯ものをたためるようになったりします。お母さんやみんなの喜んでいる姿を見て自分も嬉しく感じるようになります。楽しみながら繰り返し行うことで、生活にもつながっていくお仕事です。

折りたたむ
(日常生活の練習)



黄色バッチが生き生きと取り組むお仕事

子ども達が、これまでに取り組んできた言語活動では、さまざまなカードや黒板などを使いながら、たくさんの言葉や文字を知ることが出来ました。この活動でも、前号の黄色バッチの活動紹介と同様に、カードを並べていくことで、こんどは「文章」も書いていきます。

「二色」とは、青い文字と赤い文字で、どちらも五十音揃っています。例えば、赤カードで「なにいろがすきですか」と質問をすると、子どもは青カードで「きいろがすきです」と書いていきます。興味深いことに、質問の時、声を出さず静かにカードを並べると、子どもは固唾を飲むようにじっと言葉を目で追います。そうして自分で文の意味を理解し、それが自分へのメッセージだと知った時、本当に嬉しそうにします。やがてお友達同士での活動もお手紙交換のようで楽しそうです。

二色の移動五十音
～文章を書く～
(言語教育)



青バッチが夢中で取り組むお仕事

子ども達はとても小さいころから大人が見逃してしまうような地面をちよろちよろ歩く蟻などの小さな虫や道端の雑草、木の葉の揺れる様子など、生き物に対し強い関心を見せます。子どもは、動植物やその身体の部位の名称を知ったり、絵本や図鑑を見て関心を広げていきます。

モンテッソーリ博士は、地球という環境と生物の生存との繋がりの中で自然を愛する子どもに語り掛けました。青バッチが取り組む「生命の表」の活動は、地球や生命の誕生とその後の歴史を、絵本を読んだり、表を使って歩いてその長さを体感して、地球の歴史上、ごく最近登場した人類が現れるまでの生命の繋がりを知る活動です。

2月末には国立科学博物館に行き、展示物を見ることでその興味が更に高まり、地球上の生き物に対して思いやりが深まっていくのではないのでしょうか。お父様・お母様と一緒にいくことの意味も大きいですね。

生命の表
(文化教育)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようお願いいたします。